



資料4

(防災会議資料)

# 令和6年能登半島地震による 被害と対応について

- 国道116号新潟西バイパスの状況と対応
- 能登半島の被災状況と対応(道路関係)
- TEC-FORCEの派遣

令和6年3月



# 国道116号新潟西バイパスの状況と対応

## ◆ 被災概要

国道116号新潟西バイパス新通IC～亀貝IC間  
(延長約2km)において、橋梁や道路横断ボックス  
前後に段差発生。

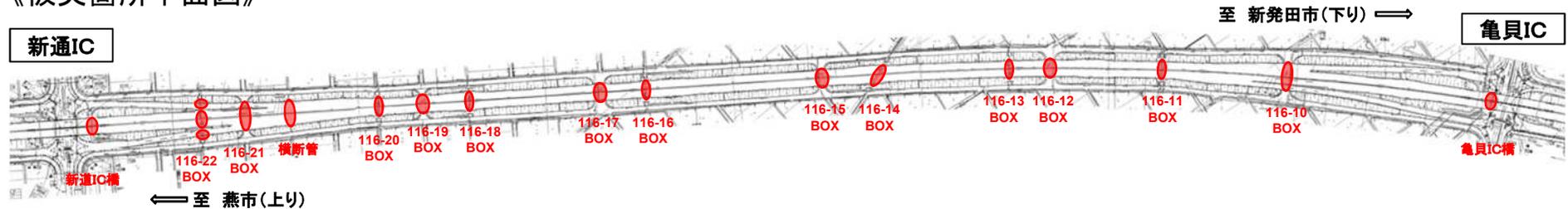
## ◆ 時系列

令和6年1月1日 16時10分 : 段差【通行止】  
1月2日 22時00分 : 下り【通行止解除】※  
1月2日 23時00分 : 上り【通行止解除】※  
※速度規制を80km/h → 60km/h に下げて解除

《位置図》



《被災箇所平面図》



《新通IC橋(上り)付近の状況》

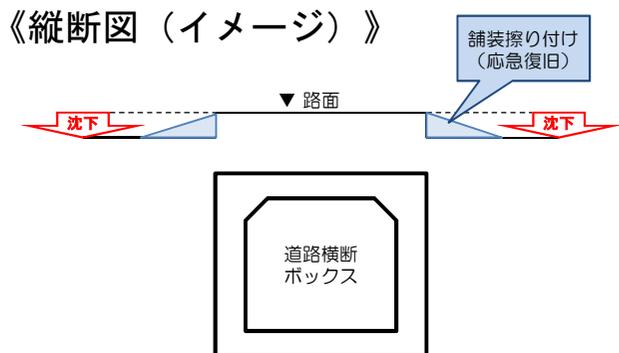


段差 8 cm



舗装擦り付け(応急復旧完了)

《縦断図(イメージ)》



道路横断ボックス前後が沈下し段差発生

## ◆ 本復旧に向けた対応

本復旧後の再沈下を防止するため現地調査・測量及び路面下空洞調査を実施し、補修方法を検討中。

- 1月 4日～1月17日  
現地調査・本線測量



- 1月18日～1月26日  
段差部の削り下げ(上り15カ所、下り12カ所)  
→ 走行性の改善と路面下空洞調査の精度向上



- 1月24日～2月29日  
路面下空洞調査・データ解析  
→ 主に道路横断ボックス前後で空洞反応あり



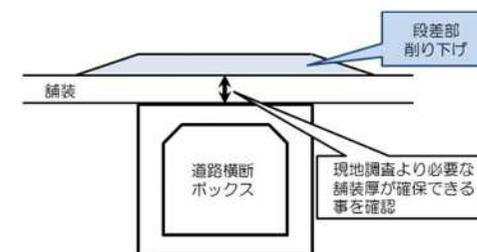
- 2月28日～3月 8日  
空洞反応箇所の開削調査  
→ 路面沈下が続いている116-17BOX(上下)、  
116-14BOX線(下り)で実施



- 3月中旬～  
空洞部補修方法検討、空洞部補修、本線舗装復旧



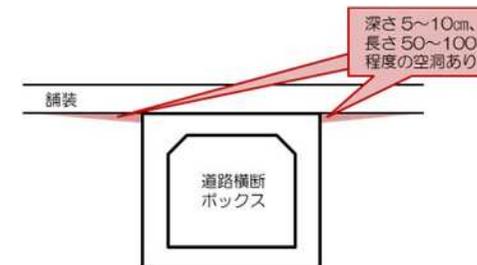
新通IC橋(上り)削り下げ後



縦断面図(イメージ)



116-17BOX(下り) 深さ 約10cm



縦断面図(イメージ)

## 【道路の緊急復旧状況】

- 1/2から幹線道路の緊急復旧に着手。24時間体制を構築し、地元を中心とした各建設業協会や(一社)日本建設業連合会の応援を受け、緊急復旧作業を順次実施。1/2には奥能登中心市街地まで普通車の通行を確保。1/4には大型車が通行可能となった。
- 孤立集落は1/19に実質的に解消。引き続き、水道・電力などの要望、自治体の要請を踏まえ、緊急復旧を実施。
- 国道249号(啓開不可区間除く)については、2/20をもって緊急復旧完了。

## 【能越自動車道・のと里山海道】

- 能越自動車道、のと里山海道の通行止め区間について、北向き通行止め解除・対面通行の区間を順次拡大しており、3月中旬までに全線で1車線通行(北向き(輪島方面)への一方通行)を確保できるよう緊急復旧を実施中。

## 【市町道路調査】

- 輪島市と穴水町において、速やかな復旧及び効率的な被災状況調査の実施を目的に市町道路調査を実施。通行可能調査(通れるマップ)にあわせて孤立状況調査を実施。被災状況調査については、2/27までの調査報告書の手交をもって完了。

## 【技術検討委員会】

- 甚大な被災を受けた能越自動車道輪島道路・穴水道路及び直轄権限代行区間等の早期復旧に向けた対策について、「令和6年能登半島地震 道路復旧技術検討委員会」を開催。

## 【協定団体等の活動】

- (一社)日本建設業連合会において、能越自動車道、のと里山海道、国道249号等の緊急復旧を実施。
- (一社)日本道路建設業協会北陸支部において、国道249号の権限代行区間等の路面補修・拡幅工事を実施。
- (一社)建設コンサルタンツ協会北陸支部及び(一社)全国地質調査業協会連合会北陸地質調査業協会において、能越自動車道、国道249号沿岸部の復旧調査、被災状況調査、地質調査を実施。

# 能登半島の被害状況と対応(道路関係)

## 令和6年能登半島地震 能登半島 道路の緊急復旧の状況

令和6年2月29日(木) 07時00分時点  
国土交通省・石川県

- 1/2から幹線道路の緊急復旧に着手。24時間体制を構築し、地元を中心とした各建設業協会や(一社)日本建設業連合会の応援を受け、緊急復旧作業を順次実施。
- 沿岸部では被災箇所が多数確認されているため、自衛隊と連携し、内陸側・海側の両方からくしの歯状の緊急復旧も進めており、13方向で通路を確保。
- 孤立集落は1/19に実質的に解消。引き続き、水道・電力などの要望、自治体の要請を踏まえ、緊急復旧を実施。

### 主要な幹線道路における緊急復旧の進捗率

	1/7 7時	現在
半島内の 主要な幹線道路	約6割 ⇒	約9割
うち国道249号 沿岸部※1	約2割 ⇒	約8割 (迂回路を考慮:約9割)
沿岸部への到達 ※2	6方向 ⇒	13方向

※1:輪島市門前町～珠洲市役所、※2:内陸側・海側の両方

### 孤立地区数の推移※3

1月5日8時	33地区 (最大3,345人)
1月19日	実質的に解消 ※4

※3:内閣府防災資料より  
※4:2/13に全て解消

### 生活インフラ復旧に必要な重要箇所の緊急復旧状況※5

優先復旧の要望数	43箇所
うち完了数	36箇所(約8割)

※5:水道、電力、通信、放送事業者より聞き取り

写真③ 国道249号法面崩落



写真④ 国道249号鳥川橋



写真⑤ 国道249号大谷トンネル



写真① 国道249号中層トンネル



写真② 国道249号緊急復旧完了



**凡例**

- (Blue line): 国交省対応(走行可能)
- (Brown line): 県対応(走行可能、この他でも作業を実施)
- (Green line): 自衛隊対応(走行可能)
- (Red line): 自動車専用道路(走行可能)
- (Dashed red line): 自動車専用道路(走行不可)
- ✕: 被災規模 大
- ★: 国復旧業者作業箇所
- (Yellow): 沿岸部への到達点

一般道



# 能登半島の被害状況と対応(道路関係)

## ◆ 市町道路調査(通行可能・孤立状況調査)

- 速やかな復旧及び効率的な被災状況調査の実施を目的に輪島市と穴水町において市町道路調査を実施。
- 通行可能調査(通れるマップ)にあわせて孤立状況調査を実施。

●輪島市においては、1月6日より延べ223班(19日間)で調査・とりまとめを行い、922区間の調査を実施

### ■ 通行可能調査

市内の道路の通行可否(車両・徒歩)を調査し、**通れるマップ**を作成

<輪島市南志見>



### ■ 孤立状況調査

孤立集落に対して、**車両・徒歩でのアクセス可否及び孤立要因**を調査

<輪島市大屋地区 滝又町、空熊町> **【孤立解消(住民避難)】**



## ◆ 新潟国道事務所における派遣実績

1月3日～2月29日まで、延べ28名の職員をTEC-FORCE<sup>※</sup>隊員として派遣。被災状況調査や応急対策、道路啓開の任務に当たる。

活動内容	出発	帰還	派遣人数
被災状況調査班	1/3 水	～ 1/9 火	4名
応急対策班	1/4 木	～ 1/11 木	1名
道路啓開班	1/6 土	～ 1/12 金	2名
道路啓開班	1/12 金	～ 1/19 金	4名
道路啓開班	1/18 木	～ 1/23 火	2名
応急対策班	1/18 木	～ 1/25 木	1名
道路啓開班	1/24 水	～ 1/31 水	2名
道路啓開班	1/26 金	～ 2/2 金	2名
道路啓開班	1/30 火	～ 2/6 火	2名
道路啓開班	2/5 月	～ 2/12 月	2名
道路啓開班	2/11 日	～ 2/18 日	2名
道路啓開班	2/17 土	～ 2/21 水	2名
道路啓開班	2/24 土	～ 2/29 木	2名
合計			28名

※TEC-FORCEとは(Technical Emergency Control FORCE):緊急災害対策派遣隊

- ・大規模自然災害への備えとして、迅速に地方公共団体等への支援が行えるよう、平成20年4月にTEC-FORCEを創設し、本省災害対策本部長等の指揮命令のもと、全国の地方整備局等の職員が活動。
- ・TEC-FORCEは、大規模な自然災害等に際し、被災自治体が行う被災状況の把握、被害の拡大の防止、被災地の早期復旧等に対する技術的な支援を円滑かつ迅速に実施。



被災状況調査班 活動状況



応急対策班 活動状況



道路啓開班 活動状況